

地球の有限性を認識し日々の生活から環境を考える

取材記事掲載、EVI環境マッチングイベント2016!

2016年人間会議冬号宣伝会議発行



のあらゆる人が、知性と人間性を磨き合う「哲学総合誌」。哲学、宗教、科学、芸術など、様々な分野における第一線の方々による執筆、インタビューなどを掲載。今年も秋に開催されたEVI環境マッチングイベント2016から講演内容から抜粋して紹介していますので、ぜひご覧ください。

宣伝会議発行の
人間会議は人生
に哲学を生かす
高い理想と豊か
な人間性に溢れ
る21世紀の世界
に向けて地球上



ます」と、日本の森林における課題について語った。

「地球が有限であることを身をもつて体感する時代に——鈴木基之（日本JNEP協会代表理事）

日本JNEP協会代表理事の鈴木基之氏は、環境保全技術、ゼロ・エミッഷン、地球規模の物質循環などの検討を通じ、持続可能な人間活動の在り方に関心を持ち、「地球有史時代へのパラダイムシフト」について語った。

「私たちは経済成長がさせをもたらすという価値観でこれまで進んできましたが、それは限界を理解づけあります。化石資源だけでなく自然資源もまた有限であり、この事実は科学技術を範囲目でも解決できません。現行世代は、人類史上初めて地球の有限性を、身をもつて体験しつつある世代であり、若い将来の人間生きも徐々になりつつあるなか、これからは日本一国が、あるいは自分が良ければいいという考え方には許されない。有識のなかで肩を寄せ合って、他者や地球のために貢献する方向に向かわなければなりません。また、人間の活動が三次元化・地域化してきなまみで、日本の高度成長期を例に解説した。日本の経済成長とともにエネルギーの消費量も指数的につれて増加し、現代日本では一人あたり1日1万キロカロリー一分のエネルギーを使って生活していると指摘。これだけのエネルギーを使うほど、我々は快適さを得られているで

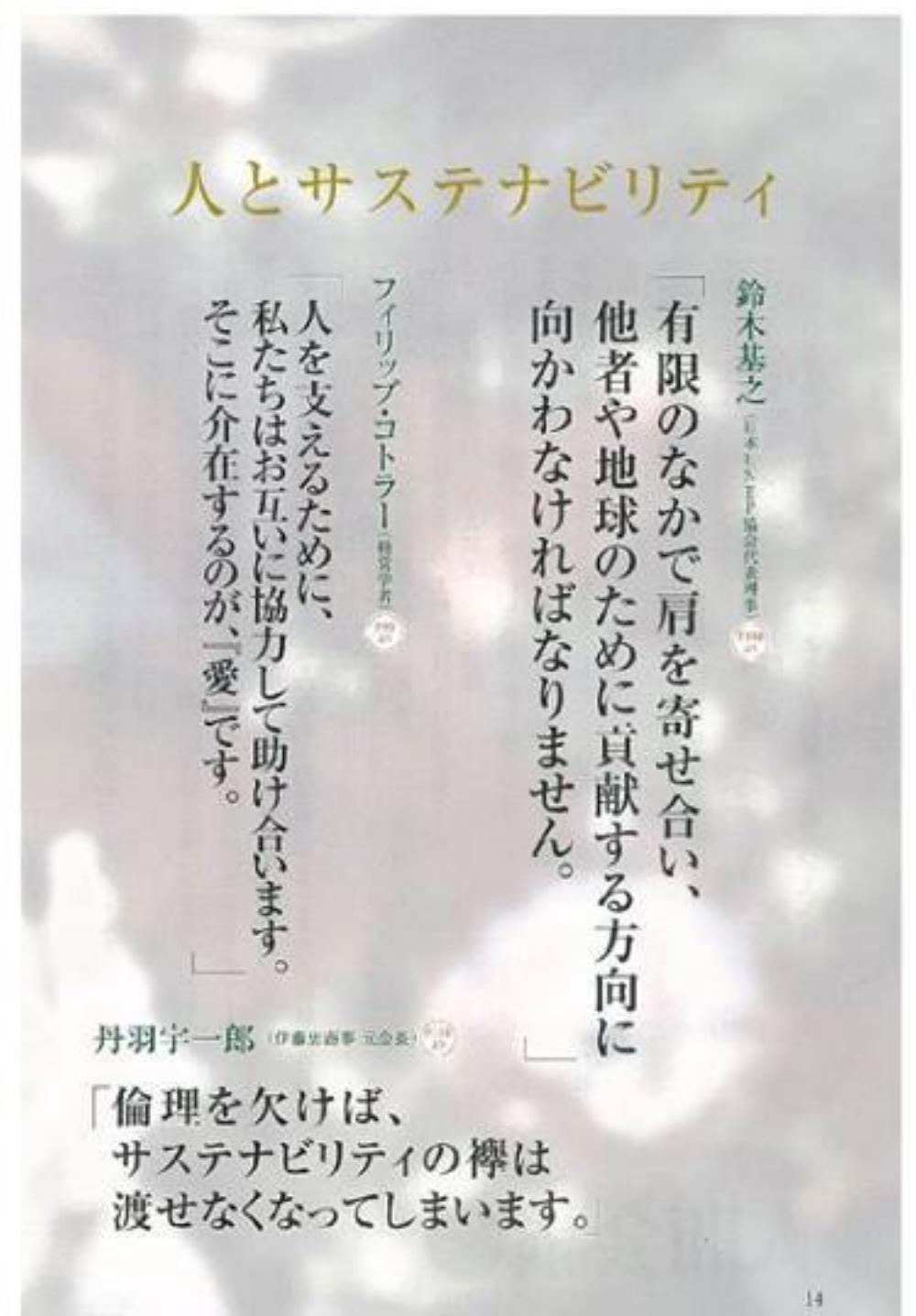
169 人間公演 卷号 2016



地球の有限性を認識し
日々の生活から環境を考える

を支えるために、
たちはお互いに協力して助け合います。
こに介在するのが、「愛」です。」

倫理を欠けば、
サステナビリティの権は
渡せなくなってしまいます。



環境貢献を「もっと、身近に。」
—EVI 環境マッチングイベント2016



EVI事例2【高校生の原発貢献】
愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company 部
愛知県立南陽高等学校の「Nanyo Company」部は、地域のために何ができるのかを自分たちで考え、エコバック等収益の需要や需要、地域イベントへの出展などを趣向して行ってきた。フィリピンのアーティザンを使ったホールドーのフェアトードやカーボン・オフセット販売を活用し、昨年は第5回カーボン・オフセット大賞特別賞を受賞。EVIを活用して地域や世界、環境にも配慮した地域貢献活動を提案、実践している注目度とて、注目されている。

从以上数据可以看出，「网络传销」的特征非常明显。

落語芸術協会の真打・春風亭柏枝氏が、講談落語・落合「和尚とちん忠」を、「ZVJ 落語マッチングイベント2010」で披露。落語を通して、「カーボン・オフセット」を知ったからっていいじゃない!というメッセージを込め、落語が楽しむながらカーボン・オフセットについて知る機会を提供している。真打 春風亭柏枝は1落語につき150円(税込)を落語家団体に寄付している。音楽による日本文化の落語普及を実現した。



EVI事例3【地域パフォーマンス】
ボルカホンダンスユニット Cheeky
地域貢献型商品でもある遊ボール型のカホン製打楽器(ボルカホン)は、1機器につき100円が森林実習に
なる。ボルカホンダンスユニット(Cheeky)は、ボルカホンを使って、ラインダンスと組み合せたパフォーマン
ス演出による。



「CO₂排出をゼロにするため
移行期には、現在『価値がある』、
思われているものが価値を失つて
く、投資引き揚げにより失われる」
差は20兆→30兆ドルと試算され
ます。カーボンバブルの崩壊に備え
ければなりません」



ギー事業に参入した経緯を語った。

「東日本大震災をきっかけに『困った』感がなければ延命も成り立たない」と危機感を持つたことが大きな理由です。現在は、SBIエナジーで太陽光発電所を作り、SBIパワーでも運営の小手を行っています」

ソリューションが提供する電気はランの、ひとつ目の目玉となるのが「P-ITでんきプラン(再生可能エネルギー)」。このプランは、太陽光発電などの可再生能源で発電されたP-IT電気市比率が約60%。日本全体の発電量に占める再生可能エネルギーの割合は約10%である。とから、P-IT電気が約60%とい、数字をこれだけの規模で運営しているのは非常に高いと言える。

開グループは、源正義氏が会長を務める「自然エネルギー・財團」(

活動も行い、幅広い自然エネルギーの可能性を追求している。また、モンゴル、インド、中国、韓国、ロシアといった国々と連携を結ぶことで、再生可能エネルギーを含めた資源の安定供給を図る「アジア・スープラーバー・グリッド構想」も掲げ、日本だけではなく、グローバルな視点で環境やエネルギーの問題を真に考えている企業だからであるといふところだ。



173 人間白痴 番号 2016